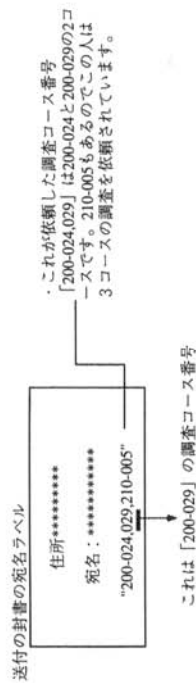




- 調査は、調査コース番号でお願いしています。
  - 調査コース番号は、宛名ラベルと調査コース地図に記載されています。
- 調査コースの確認方法
- 調査コース番号は、封筒の宛名ラベル（調査員各位あて）下に記載された番号で、これが調査を依頼した調査コースです。



- この調査員には、3コースの調査をお願いしていますので、該当する調査コース地図も3枚あるはずですが、「調査コース地図」の調査コース番号の記載については次項をご覧ください。「宛名ラベル」と「調査コース地図」の調査コース番号が一致していない場合は、間違っ地図が送付された可能性がありますので、至急ご連絡下さい。

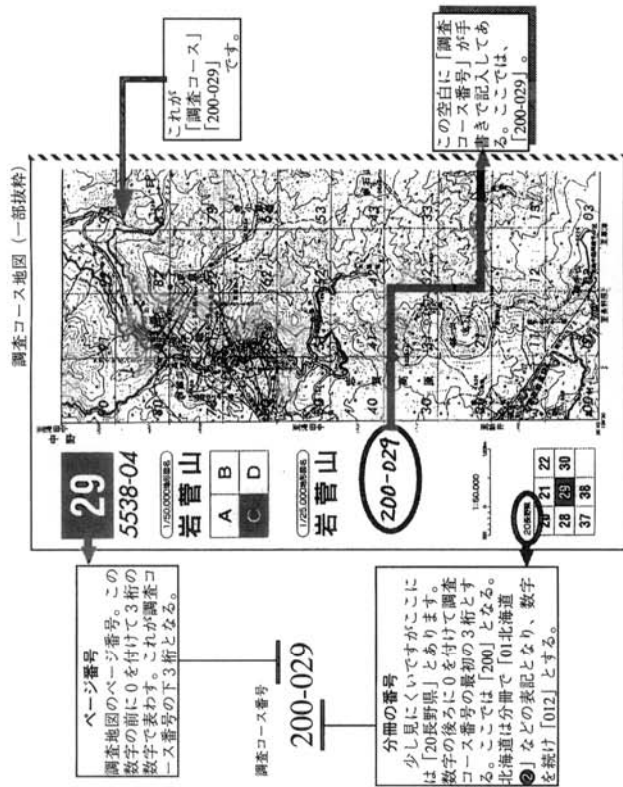
■ 調査コースについて

- 1つの調査コースには、1つの調査コース番号がふられています。
  - 調査コースは、複数お願いしている場合があります。
  - 1つの調査コースは、複数の地図にわかれている場合があります。
- 調査コース番号の表現
- 調査コース番号は、普通は上記のラベルのように「200-024.029.210-005」のような表現をしています。
  - 一部の「調査コース地図」には、複数の調査コースがある場合があります。これは調査コース地図の「上、左」を優先して、調査コース番号の最後に「abc...」とアルファベットがふってあります（\*1）。
  - 1つの調査コースは、複数の地図にわかれている場合もあります。調査コースの下3桁を（ ）付で表示してあります（\*2）。
- \*1. 「350-012a.350-012b」：同じ地図上に調査コース「350-012a」と「350-012b」の2コースがあることを示す。
- \*2. 「250-010(011.015)」：調査コース「250-010」が別の地図の調査コース「250-011」と「250-015」にわたることを示す。調査コース番号は、「250-010」です。

■ 調査コース番号の構成

- 調査コースの地図は、「都道府県別メッシュマップ」\*1の分冊（研究センター保管）に描かれており、調査員の方々に送付したものは、そのコピーです。調査コース番号は、この分冊の番号とそのページ番号で構成されています。

たとえば、調査コース番号「200-029」の調査地図は、以下のように構成されています。



「200-029」の調査コース番号と調査地図の表示

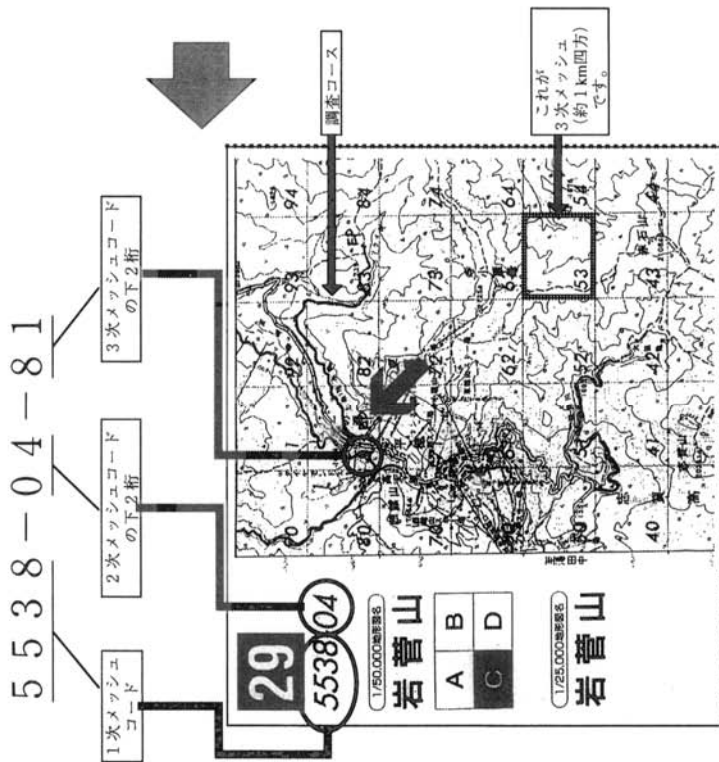
調査地図の表示 (分冊の番号、ページ番号)	
調査コース番号	20、29
200-029	

\*1 「都道府県別メッシュマップ」は、都道府県各1冊ずつで構成されています（ただし北海道は7分冊）。平成3年度までに作成された地形図をもとにしているため、地域によっては地形図として古いものもありません。（財）自然環境研究センターで販売しています。

- ・3次メッシュは、約1km四方の範囲で、調査の基本単位です。
- ・調査は、この3次メッシュごとに記録をとりまします。

■調査票に記入する3次メッシュコードは8桁の数字で表現します。  
 下の調査コースは5538-04-81、5538-04-82、5538-04-92、5538-04-83の3次メッシュを通っています。  
 (地図の位置を表現する場合はメッシュといい、数字で表現する場合はメッシュコードという。)

BPの地点は、下記のように「5538-04-81」の3次メッシュコードで表現します。



- ・送付の調査地図同等のものより一部抜粋 (縮尺は拡大縮小等がかかっているのが実際の縮尺とは違っています)。
- ・送付の調査地図の縮尺は1/5万ですが、2次メッシュ (1/2.5万地形図) の範囲です。

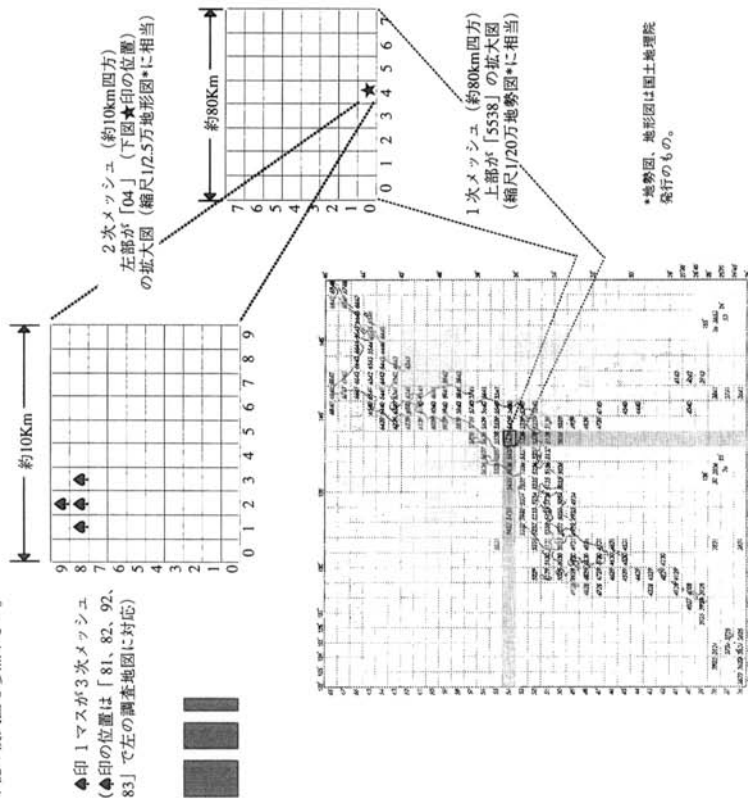
※一般的には3次メッシュコードは、上の例だと「5538-0481」のように記載されます。今回は、データ整理に間違いが起こりにくいように、2次メッシュコードと3次メッシュコードの下2桁の間にハイフオンを入れました。

■メッシュコード「標準地域メッシュ」の仕組み

「標準地域メッシュ」は、日本全体を網羅するように作られており、範囲の大きさに別、第1次地域区画、第2次地域区画、第3次地域区画とあります。それぞれ1次メッシュ、2次メッシュ、3次メッシュと呼んでおります。

- ◆第1次地域区画 (1次メッシュ) : 国土地理院発行の縮尺1/20万地形図の通常の区画に相当する範囲。
- ◆第2次地域区画 (2次メッシュ) : 第1次地域区画の縦横を8等分したものを。国土地理院発行の縮尺1/2.5万地形図に相当する範囲。
- ◆第3次地域区画 (3次メッシュ) : 第2次地域区画の縦横を10等分したものを。

下記の模式図を参照下さい。



- ◆印1マスが3次メッシュ (◆印の位置は「81、82、92、83」で左の調査地図に対応)

2次メッシュ (約10km四方) 左端が「04」(下図★印の位置) の拡大図 (縮尺1/2.5万地形図\*に相当)

1次メッシュ (約80km四方) 上部が「5538」の拡大図 (縮尺1/20万地形図\*に相当)

\*地形図、地形図は国土地理院発行のもの。

●メッシュコード「標準地域メッシュ」の利用

標準地域メッシュおよびそのコード体系は、「統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュ・コード」として行政管理庁告示によって定められており、JISにも採用されています。標準地域メッシュは、統計データの表示をはじめとして、地形、自然環境、行政地域、道路、鉄道、公共施設、文化財などの位置・範囲等を数値化して表示するなど、多方面で利用されています。今回も分布図作成の手段として、使用しておりますが、このように標準地域メッシュを基準として、地域(県単位等)情報を数値化しておけば、データの連続性もあり、比較分析等への広範囲な利用が図られます。